

伊藤鉄工所 裁断機部品の生産能力増強

金型メーカーの伊藤鉄工所（本社四日市市広永町1356の1、伊藤恒毅社長、電話059・361・5030）は、2022年4月期をめぐり本社工場に新たな複合加工機を導入する。おむつなどサニタリー用品の製造に使用する、裁断機部品の生産能力を増強する。サニタリー用品の裁断機部品の製造販売事業を新たな収益の柱に育てる。

（四日市・山田駿太）

新たに導入するのは、旋盤などの部品。生産能力を現在の2倍に相当する年最大72セーターカーなどへ納入する。

併せて、製品の設計や加工機の制御などを行うCAD／CAMシステムも導入する。



伊藤恒毅社長

加工機とシステムを合わせた投資額は4千万円を見込んでいる。

複合加工機で生産するのは、サニタリー用品の裁断機のうち、被加工物を載せる台



複合加工機1基を導入する計画



本社に複合加工機導入へ

四日市市広永町の本社工場

複合加工機の導入で生産性を高め、作業時間の短縮にもつなげる。

伊藤鉄工所が新たな複合加工機の導入に踏み切るのは、事業の多角化を推進するため。

同社の主力製品は、自動車に搭載する防振ゴムの試作品の金型。自動車のエンジンや足回りなどの部品の試作品も造っている。主に自動車部品メーカーに納入している。

特定の得意先への売り上げのウエートが高いことなどから、事業の多角化を進め、リスク分散を図る必要があると判断した。

将来的にはサニタリー用品裁断機部品の売上高比率を、現在の2割から3割に引き上げる考え。

伊藤社長は「今後も社会のニーズに応えるものづくりに取り組んでいきたい」と話している。

伊藤鉄工所は1968年に四日市市別名で創業。89年に法人化し、2005年に現在の本社に移転した。従業員数は10人。

